

はじめに

当社の複合フローリングは、一定の含水率に調湿した乾燥材を用いていますが、天然木の特性として湿度による膨張収縮があります。湿度変化が起こった際のトラブルを未然に防ぐためにも、必ず以下の手順をお守りの上、施工を行って下さい。

施工前の確認と注意点

《重要》施工後の商品の返品や交換には応じかねますので、必ず施工前に商品違い・数量違い・損傷の有無がないかご確認ください。万一、問題が認められた場合は施工を行わず直ちに弊社までご連絡下さい。

- 商品は、室内の平滑な場所に保管ください。また、直射日光のあたる場所や高湿度な場所での保管はお避け下さい。

直貼り対応フローリングの施工方法

① 下地処理

- モルタル下地は、含水率 10%以下であることを、必ず確認した上、施工してください。

含水率が高いと、乾燥によりモルタルに亀裂が生じやすく、接着不良やフローリングに反りや隙間などの不具合が生じる場合がありますのでご注意ください。

(打設後、夏期で3週間、冬季で4週間が目安となります。また、周辺環境や湿式工事の影響による湿気には十分にご注意下さい。)

- モルタルの不陸は、下地補修剤で集成し、1mにつき 3mm 以内であることを確認してください。

下地の不陸が大きいと、フローリングと下地の間に空間ができるため、接着不良が生じることがあります。

*石膏系のセルフレベルは接着不良の原因となりますので、使用しないで下さい。

② 開梱・仮並べ

- 当社のフローリングは天然木を使用しているため、材一枚一枚の色合い・木柄が異なります。

貼り始める前に 3~4 ケースを開封・仮置きし、全体的な色・柄のバランスを確認した上で施工することをおすすめします。

*色合いや柄が気になる材は、什器下など目立たない場所にお使い下さい。

③ フローリングの貼り込み

●当社のフローリングは天然木を使用しているため、湿度による伸縮が起きます。

敷き始め・敷き終わりは、壁際から複合フローリングで 3～5mm 程度、無垢フローリングで 5～10mm 程度の隙間を設けた上、巾木で覆ってください。

* 壁がコンクリート打ちっばなしの場合や巾木の厚みが薄い場合は、壁際は同上的間隔をあけた上で、コーキング処理をして下さい。

●接着剤はフロー用 2 液型エポキシボンドを 1 : 1 によく混合の上、ご使用になるか 1 液型ウレタンボンドをご使用下さい。

* 床暖房施工の際には、必ず床暖房対応ボンドをご使用ください。

【推奨品：コニシ株式会社 E350R・KU928RS】

●接着剤は部分的な塗布を避け、クシ目ゴテ等でのぼし、全体に塗布して下さい。

(基準塗布量・作業温度・オープンタイムに関しては接着剤メーカーの説明書に従って下さい。)

●フローア上面をゴムハンマーで叩き、接着剤とフローリングをよく密着させてください。

* 貼りはじめと、納め部分や幅決めカットした箇所は、実（サネ）がカットされて浮きやすいため、特に注意して押さえこんで下さい。また、接着剤がフローリングの表面や巾木等に付着した場合は、すぐに拭き取って下さい。

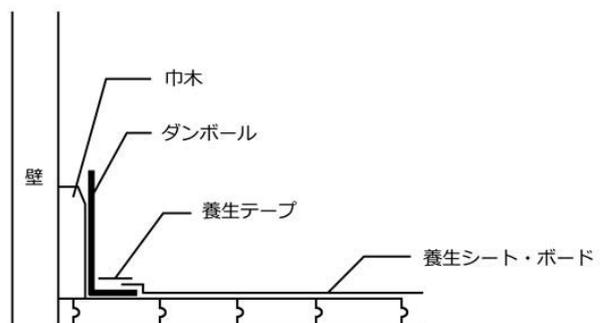
④ 養生

●施工後はフローリングの表面に擦り傷や、石膏ボードの粉が入り込まない様、床全体を隙間なく養生をして下さい。

露出している箇所があると、紫外線などにより、フローリングが変色し、覆い隠している部分との色違いが発生する場合がありますのでご注意下さい。

*** 養生テープは、フローリングに直接貼らないで下さい。**

テープから溶剤が浸透し、テープを剥がす際に塗膜剥離やテープ痕がシミになる恐れがあります。



●養生の際はダンボールの敷設やマスキングテープを貼り、その上に弱粘着性養生テープのご使用をお願いします。